

モデル 8000 ハンディターミナル
データ収集プログラム
<AP00>
&
メニュー設定ソフトウェア
<8000_MENU>



改訂記録	
改訂番号	改訂日
Rev.1.0	Jan. 2003 （初版）
Rev.2.0	Mar. 2003 AP00 V2.0 & 8000_MENU V2.00 に対応
Rev.2.1	Mar. 2003 AP00 V2.1 に対応 データ閲覧にて任意ポートを削除
Rev.2.2	Sep. 2004 AP00 V3.4 に対応 データファイルのモテムアップロードに対応
Rev.2.3	2006/02/21 AP00 V4.0 に対応
Rev.2.4	2007/04/16 AP00 V4.5 に対応 8000_MENU V2.20 動作環境 Windows 2000/XP/Vista

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 本書の内容に関しては、将来予告無しに変更することがあります。2. 本取扱説明書の全部又は一部を無断で複製することはできません。3. 本書内に記載されている製品名等の固有名詞は各社の商標又は登録商標です。4. 本書内において、万一誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。5. 運用した結果の影響について、4.項にかかわらず責任を一切負いかねます。 |
|--|

目次

1.	はじめに	5
2.	AP00 をダウンロードする	6
3.	AP00 を動かす	8
3.1.	デフォルトメニュー	8
3.2.	データ収集作業をする	9
3.3.	データをアップロードする	13
3.4.	オプションを設定する	15
3.5.	マスターファイルモード	19
3.6.	AP00 のファクション割当て	21
3.6.1.	メインメニュー画面	21
3.6.2.	データ入力画面	22
4.	8000_MENU を使う	23
4.1.	はじめに	23
4.2.	8000_MENU を実行する	23
4.3.	動作環境を設定する	24
4.4.	バーコードオプションを設定する	24
4.5.	カスタマイズメニューを作成する	25

Blank page

1. はじめに

AP00 は、お客様の業務ニーズに合わせてメニューや入力項目を簡単に加減することができるモデル8000シリーズ（以下、ハンディターミナル）専用のデータ収集アプリケーションソフトです。

下記に AP00 の特徴を列挙します。

特長

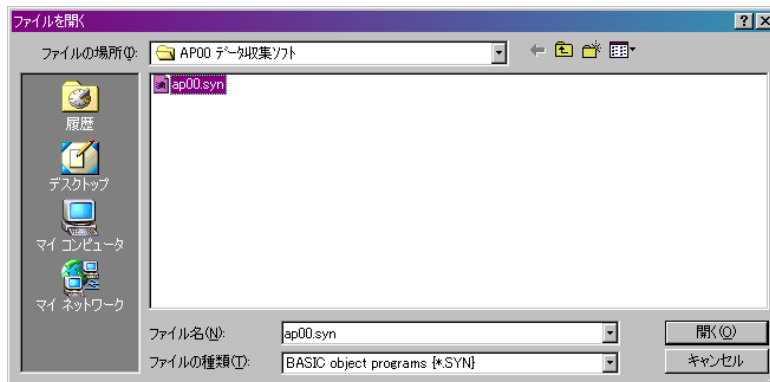
1. アプリケーションタイトルを半角 16 文字(全角 8 文字)の範囲内で設定することができ、フルスクリーンに主業務内容を明確に伝えることができます。もちろん、アプリケーションタイトルを無しに設定することも可能です。
2. 10 個迄のメニューを設定することができ、多岐にわたる業務メニューにも対応可能です。メニュー名称は、アプリケーションタイトルと同様、半角 16 文字(全角 8 文字)の範囲内で自由に設定可能です。
3. 1 つのメニュー下に最大 10 項目までの入力項目を設定することができます。入力項目には、数値(1~9999)・英数字(1~40 桁、アルファベット・数字)・数字(1~40 桁、数字)が設定できる他、入力項目を必須又は共通に区分分けすることが可能です。また、数字入力項目を応用することで小数入力も可能になります。
4. 付属のメニュー設定用ソフト 8000_MENU を使用することで、WINDOWS 上で AP00 の加減メニューを作成・変更・保存・読み出しが可能になります。また、作成したメニューは、ハンディターミナルにダウンロードすることで、即、AP00 に反映させることができます。
5. マスターファイルをハンディターミナルにダウンロードすることで、入力データを制限することが可能です。
6. AP00 をインストールしたハンディターミナル間でメニューファイルのバックアップを行うことができます。

2. AP00 をダウンロードする

AP00 をハンデーターミナルにダウンロードする手順を示します。

【ダウンロード手順】

1. ハンデーターミナル用プログラムが収録されているフォルダから SYNLOAD.EXE を起動します。
2. ファイルを開くダイアログから AP00.SYN を選択します。
SYNLOAD.EXE は、Cipher BASIC が生成したオブジェクトファイル (*.SYN) と同じファイル名で拡張子が INI の初期設定ファイルをハンデーターミナルにダウンロードします。

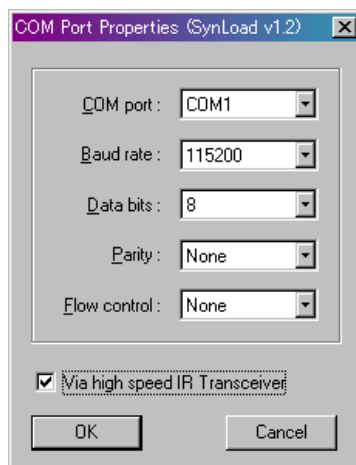


初期設定ファイル (*.INI) には、DBFファイルなどの設定情報が含まれているため、プログラムの正常動作させるためには、必要不可欠なファイルです。ダウンロードするプログラムファイルと同一フォルダ内に必ずそのプログラムで使用する INI ファイルを配置するようにしてください。

3. 下記のダイアログボックスで通信条件を設定します。通信ポート及び IR-705アダプタ経由でダウンロードする場合は、Via high speed IR Transceiver チェックボックスを有効にします。

ハンデーターミナルを BASIC プログラムダウンロードモード に設定し、適切な通信位置にセットします。
ハンデーターミナルの電源を 7 と 9 を押しながらかにすることで、システムメニューが表示されます。詳しくは、各ハンデーターミナルの取扱説明書を参照下さい。

準備ができれば、OK ボタンをクリックして、プログラムのダウンロードを開始します。



データロード完了後、最初にプログラムが最初に立ち上がると、下記のメッセージが表示されます。

New Program
[ESC] Clear File
[Other] Skip

ESCキーを押して、以前に作成されたファイルを初期化してください。

【参考】

AP00 は標準で以下のバーコード読み取りが可能です。

各バーコードのオプションは、AP00 のオプション設定メニューで設定可能です。

- コード 39
- インタープリント 2/5
- NW7(コードバー)
- コード 128
- JAN/EAN/UPC 【アドオン無し】

読み取りバーコードの変更や AP00アプリケーションソフトのカスタマイズについては、お近くの販売店又は弊社までご相談ください。また、アプリケーションソフトの新規作成についても、お気軽にご相談ください。




3. AP00 を動かす

3.1. デフォルトメニュー

AP00 のダウンロードが完了すると、ハンディターミナルは自動的に AP00 を実行し、デフォルトのメインメニューを表示します。

【デフォルト・メインメニュー画面】

[標準メニュー]		プログランタイトル
1.入庫		
2.出庫		
3.返品		
4.棚卸		画面が0-9で表示されます
5.送信		
6.受信		
7.削除		
8.設定		

各メニューの選択は、  キー又は数字キーで行い、 キーで確定します。
尚、10 番目のメニューを数字キーで呼び出す場合は、0キーを使用します。

AP00 では、メニュー及びそれに属する入力項目を付属のメニュー設定ソフト8000_MENU を使って自由にカスタマイズすることができます。

カスタマイズ方法については、「4. 8000_MENU を使う」を参照ください。

ここでは、AP00 のメニューとそれに属する入力項目のデフォルト値を示します。

【デフォルトメニュー構造】

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾅﾐﾚ						
[標準メニュー]						
メニュー No.1		ENT 確定				
1.入庫		有り				
入力項目	入力アダプト	入力区分	入力種別	入力方法	桁数	
No.1	コード	必須	英数字	欄方	1~40	
入力項目	入力アダプト	入力区分	入力種別	入力方法	桁数	
No.2	数量	必須	数値	キーボード	1~9999	
メニュー No.2		ENT 確定				
2.出庫		有り				
入力項目	入力アダプト	入力区分	入力種別	入力方法	桁数	
No.1	コード	必須	英数字	欄方	1~40	
入力項目	入力アダプト	入力区分	入力種別	入力方法	桁数	
No.2	数量	必須	数値	キーボード	1~9999	
メニュー No.3		ENT 確定				
3.返品		有り				
入力項目	入力アダプト	入力区分	入力種別	入力方法	桁数	
No.1	コード	必須	英数字	欄方	1~40	
入力項目	入力アダプト	入力区分	入力種別	入力方法	桁数	
No.2	数量	必須	数値	キーボード	1~9999	
メニュー No.4		ENT 確定				
4.棚卸		有り				
入力項目	入力アダプト	入力区分	入力種別	入力方法	桁数	
No.1	コード	必須	英数字	欄方	1~40	
入力項目	入力アダプト	入力区分	入力種別	入力方法	桁数	
No.2	数量	必須	数値	キーボード	1~9999	
メニュー No.5		デフォルト				
5.送信		送信処理				
メニュー No.6		デフォルト				
6.受信		受信処理				
メニュー No.7		デフォルト				
7.削除		削除処理				
メニュー No.8		プログラム				
8.設定		設定メニュー				

3.2. データ収集作業をする

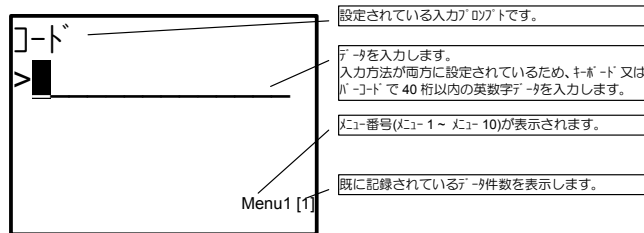
AP00 でのデータ収集作業は、ユーザによって設定されたメニュー及び入力項目に従って行われます。2つの例を元に説明を行います。

例 1

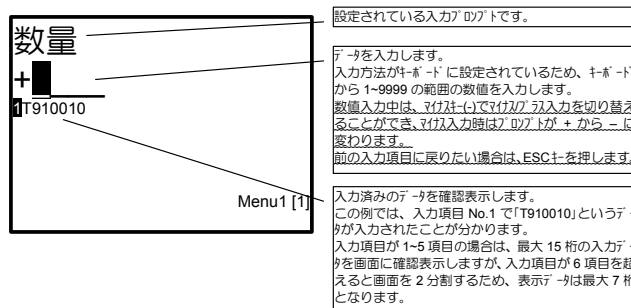
下記のメニュー構造が登録されている場合を考えます。

77" リア・ジャンタイト						
標準メニュー						
メニュー No.1		ENT 確定				
1.入庫		有り				
入力項目	入力アンプ	入力区分	入力種別	入力方法	桁数	
No.1	コード	必須	英数字	両方	1~40	
入力項目	入力アンプ	入力区分	入力種別	入力方法	桁数	
No.2	数量	必須	数値	キーボード	1~9999	
メニュー No.2		ENT 確定				
2.出庫		有り				


1. ハンディータミナルのメニューから「1. 入庫」を選択します。現在のコード数及び残メモリ件数を表示後、入力項目 No.1「コード」の入力画面が表示に移ります。

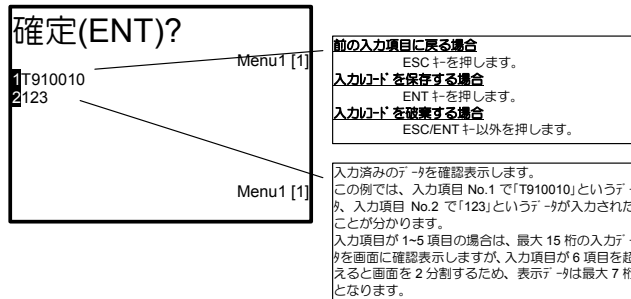



2. 入力項目 No.1「コード」の入力が終わると、入力項目 No.2「数量」の入力画面が表示に移ります。



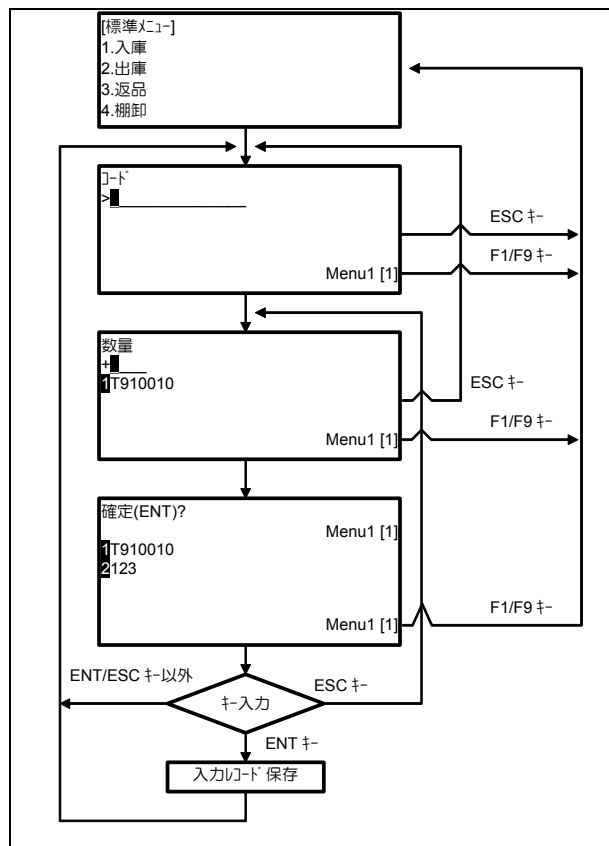
3. 入力項目 No.2「数量」の入力が終わると、「ENT 確定有り」に設定されているため、コードを保存して良いかを確認するためのプロンプトが表示されます。

保存しても良い場合は、 キーを押し、破棄する場合はその他のキーを押します。



4.  キーを押し、入力コードを確定すると、そのコードをメモリに保存し、次のコード入力に移ります。この例の場合、入力項目 No.1「コード」と入力項目 No.2「数量」がいずれも入力区分「必須」と設定されているため、入力項目 No.1「コード」の入力に処理が戻ります。

【例 1 - 入力フロー】



例 2

下記のメニュー構造が登録されている場合を考えます。

メニュータイトル [標準メニュー]					
メニュー No.1 1.入庫		ENT 確定 無し			
入力項目 No.1	入力フィールド 棚番	入力区分 共通	入力種別 英数字	入力方法 両方	桁数 3~3
入力項目 No.2	入力フィールド コード	入力区分 必須	入力種別 英数字	入力方法 バコード	桁数 10~10
入力項目 No.3	入力フィールド 数量	入力区分 必須	入力種別 数値	入力方法 キーボード	桁数 1~9999

1. ハンディターミナルのメニューから「1.入庫」を選択します。現在のコード数及び残メモリ件数を表示後、入力項目 No.1「棚番」の入力画面に表示が移ります。

棚番

>

Menu1 [1]

設定されている入力フィールドです。

データを入力します。
入力方法が両方に設定されているため、キーボード又は
バコードで3桁の英数字を入力します。

メニュー番号(メニュー1 ~ メニュー10)が表示されます。

既に記録されているデータ件数を表示します。

2. 入力項目 No.1「棚番」の入力が終わると、入力項目 No.2「コード」の入力画面に表示が移ります。

コード

>

111

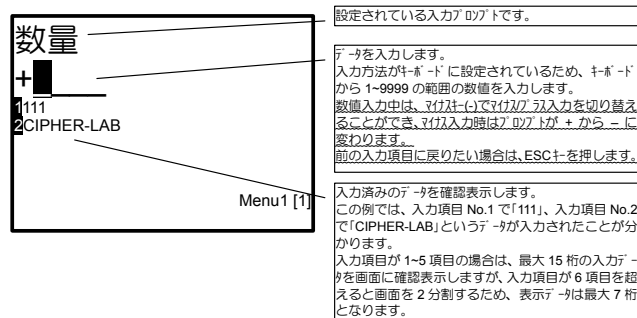
Menu1 [1]

設定されている入力フィールドです。

データを入力します。
入力方法がバコードに設定されているため、バコード
で10桁の英数字データを入力します。
前の入力項目に戻りたい場合は、ESCキーを押します。

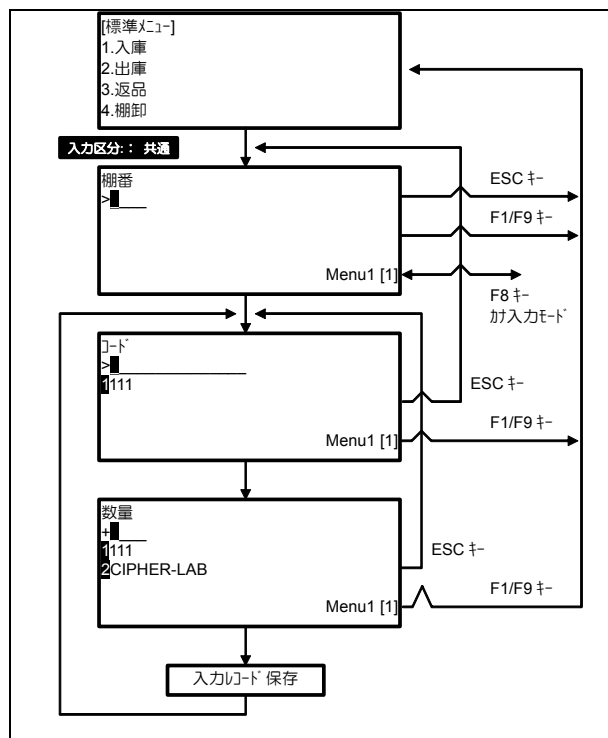
入力済みのデータを確認表示します。
この例では、入力項目 No.1 で「111」というデータが入
力されたことが分かります。
入力項目が1~5項目の場合は、最大15桁の入力デー
タを画面に確認表示しますが、入力項目が6項目を超
えると画面を2分割するため、表示データは最大7桁
となります。

3. 入力項目 No.2「コード」の入力が終わると、入力項目 No.3「数量」の入力画面に表示が移ります。



4. 入力項目 No.3「数量」の入力が終わると、「ENT 確定 無し」に設定されているため、自動的に「コード」を確定保存します。
5. 「コード」保存が終わると、次の「コード」入力に移ります。この例の場合、入力項目 No.1「棚番」が入力区分「共通」と設定されているため、入力項目 No.2「コード」の入力に処理が戻ります。

【例 2 - 入力フロー】

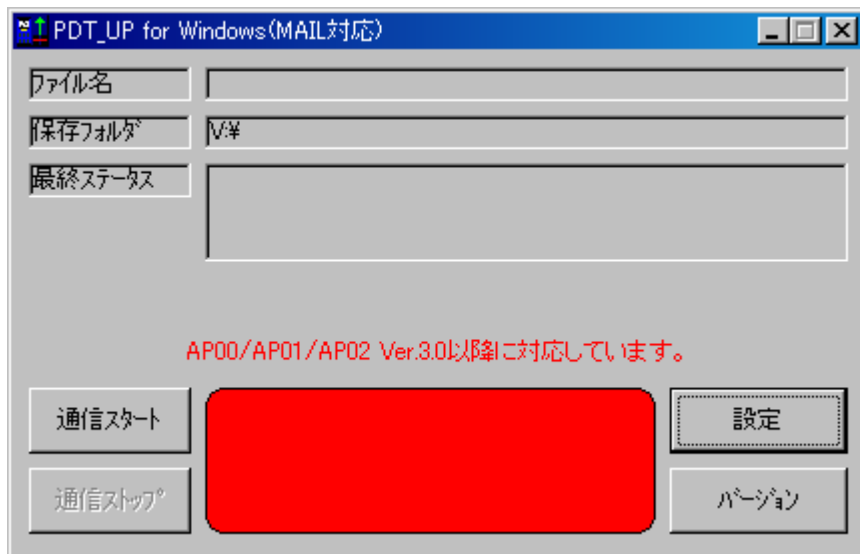


3.3. データをアップロードする

AP00 で収集したデータは全てハンディターミナルのメモリにデータファイルとして保存されています。

データファイルをホストへアップロードする場合は、メインメニュー画面から F5キー (+) を押し、ハンディターミナルメニューを表示させ、メニューから「1.データファイル送信」を選択し、メッセージに従い通信位置にハンディターミナルをセットします。(最後に「送信」と付いたメニューを選択することも可能です。詳しくは、本書 27 頁を参照下さい。)

続いて、ホスト側で PDT_UP(CSV 形式アップロードプログラム), PDT_UP_XLS(EXCEL 形式アップロードプログラム)又は PDT_UP_MDB(ACCESS 形式アップロードプログラム)を立ち上げて、データファイルをアップロードします。PDT_UP, PDT_UP_XLS, PDT_UP_MDB の操作方法は、各取扱説明書を参照下さい。



アップロード完了メッセージが表示された時点で、何かキーを押すと、ピーピーという警告音を発し、ファイルを削除して良いかを確認するメッセージが表示されます。

***** 注意 *****
データファイルを削除しますか?
OK=[1] 他はキャンセル

ファイルを削除して良い場合は、1 を入力します。それ以外のキーを押すと、ファイルを削除せずにメニューに戻ります。

【参考】

ファイルを削除しなかった場合は、メインメニューの「4.データファイル削除」を実行します。ファイルを削除せずに作業を続けた場合、新しいデータは追加保存されます。

また、オプション設定でファイル自動削除機能を有効にすることで、データ送信完了後、自動的にファイルを削除することが可能です。

データファイルの仕様

- ファイル名** アップロードする際のファイル名は、タミナルID(デフォルトT001)がデフォルトで使用されます。任意のファイル名を指定することも可能です。詳しくは各アップロードプログラムの取扱説明書を参照下さい。(タミナルIDの変更方法は、次頁「3.4. オプションを設定する」を参照ください。)
- フォーマット** メニュー番号(01~10)、カレタID(デフォルト S001)、日付、時刻、入力データ(No.1~10)の5~14フィールド(入力項目数により変わる)で構成され、各フィールドはコマで区切られた CSV 形式となります。(尚、PDT_UP_XLS の場合は、受信したデータが順に自動入力され、PDT_UP_MDB の場合は、指定テーブルのフィールドに入力されます。)

データファイルフォーマット								
メニュー番号	カレタID	日付	時刻	入力データ No.1	入力データ No.2	入力データ No.10
2バイト	4バイト	YY/MM/DD	HH:MM:SS	0~40バイト	0~40バイト	0~40バイト	0~40バイト	0~40バイト

【PDT_UP でアップロードした T001.txt をメモ帳で開いた画面】

メモ帳 (T001.txt)

ファイル(F) 編集(E) 検索(S) ヘルプ(H)

01,S001,00/05/15,18:05:56,1,1
02,S001,00/05/15,18:06:04,2,1

メニュー番号 : 01
カレタID : S001
日付 : 00/05/15
時刻 : 18/06/04
入力データ 1 : 1
入力データ 2 : 1

メニュー番号 : 02
カレタID : S001
日付 : 00/05/15
時刻 : 18:06:04
入力データ 1 : 2
入力データ 2 : 1

3.4. オプションを設定する

AP00 のオプションを設定する場合は、F3キー (**FN** + **3**) を押し、オプション設定メニューを表示させます。(最後に「設定」と付いたメニューを選択することも可能です。詳しくは、本書 27 頁を参照下さい。)

オプション設定メニュー

- 1.IDナンバーオプション
- 2.運用オプション
- 3.通信オプション
- 4.パスワードオプション

1.IDナンバー - オプション

ターミナルID

ターミナルID はデータファイルをアップロードする際のファイル名となります。任意の英数字 4 桁を設定します。デフォルトは、T001 です。

ターミナル ID : T001	現在の設定値
変更? _____	任意の 4 桁の英数字を入力し、 Enter キーで確定します。変更したくない場合は、ESC キーで次に進むことができます。 <small>* ファイル名に使用できない記号を使用してはいけません</small>

ホストID

ホストID はデータファイルの 2 番目のフィールドデータとして取りされます。デフォルトは、S001 です。

ホスト ID : S001	現在の設定値
変更? _____	任意の 4 桁の英数字を入力し、 Enter キーで確定します。変更したくない場合は、ESC キーでメニューに戻ることができます。

2.運用オプション

CPUスピード

CPUスピードを 2~5(最速)の範囲で設定します。CPUスピードを速くすると、より多くの電流を消費することになります。電池の消耗を抑えるため、業務に差し支えない範囲内で、低い CPU スピードを設定してください。デフォルトは、4 です。

CPU スピード : 4	現在の設定値
2~5(max)	
変更? _____	2~5 の範囲内で CPU スピードを設定します。変更したくない場合は、ESC キーで次に進むことができます。

自動ファイル削除

自動ファイル削除を有り(1) 又は無し(0) に設定します。有りに設定すると、データファイルのアップロードが正常終了すると、自動的にデータファイルを削除します。デフォルトは、無し(0)です。

自動ファイル削除 : 0	現在の設定値
0.無し	
1.有り	
変更? <input type="checkbox"/>	0-1 の範囲内で1に保存を設定します。変更したくない場合は、ESCキーで次に進むことができます。

ブザー長

ブザーの長さを 0~6 の範囲で設定します。ブザーを鳴らしたくない場合は、0 に設定します。デフォルトは、最長(6)です。

ブザー長 : 6	現在の設定値
0~6(max)	
変更? <input type="checkbox"/>	0-6 の範囲内でブザー長を設定します。変更したくない場合は、ESCキーで次に進むことができます。

バックライト

バックライトをオ(1)又はオフ(0)に設定します。デフォルトは、オフ(0)です。

バックライト : 0	現在の設定値
0.オフ	
1.オ	
変更? <input type="checkbox"/>	0-1 の範囲内でバックライトオスを設定します。変更したくない場合は、ESCキーで次に進むことができます。

タイマー

バックライトタイマーを 0~9999 秒の範囲で設定します。デフォルトは、10 秒です。
常にバックライトをオ状態にしたい場合は、先のバックライトをオ(1)に設定し、バックライトタイマーを 0 秒に設定します。

バックライトタイマ : 10	現在の設定値
変更? <input type="checkbox"/>	
単位 <秒>	0-9999 の範囲内でバックライトタイマを設定します。変更したくない場合は、ESCキーでオに戻るることができます。

マスター表示/マスターエラー表示

マスター表示時間を 0~100(単位 100ミリ秒)の範囲で設定します。マスター表示のデフォルトは、0(ENT 確定待ち)、マスターエラー表示のデフォルトは、10(1 秒)です。

マスター表示 : 0	現在の設定値
変更? <input type="checkbox"/>	0~100 の範囲内でマスター表示時間を設定します。変更したくない場合は、ESCキーでオに戻るることができます。0を設定した場合、ENTキーが押されるまでマスター表示が行われます。
単位 <100 ミリ秒>	

マスターエラー表示 : 0	現在の設定値
変更? <input type="checkbox"/>	0~100 の範囲内でマスターエラー表示時間を設定します。変更したくない場合は、ESCキーでオに戻るることができます。0を設定した場合、ENTキーが押されるまでマスター表示が行われます。
単位 <100 ミリ秒>	

3. 通信オプション

ポートタイプ

通信ポートタイプを設定します。デフォルトは、3 (クルードル&IRデータ通信)です。

「5.SPP」は、Bluetooth シリアルポートファイルを意味しており、ご使用のハンディターミナルがモデル8061シリーズの場合のみ設定できます。

ポートタイプ : 3	現在の設定値
3.IR	
4.IrDA	
5.SPP	
変更? _	3~5 の範囲内でポートタイプを設定します。変更したくない場合は、ESCキーでメニューに戻ることができます。

4. バーコード オプション

このオプション設定メニューを選択すると、バーコードオプション設定メニューに切り替わります。

バーコードオプションメニュー
1.照合回数
2.コード 39
3.NW7(コードバー)
4.インターリーブド 25

5.コード 128
6.EAN/JAN8
7.EAN/JAN13/UPCA
8.UPCE

↑
スクロール表示できるメニューです。

1. 照合回数

バーコード読み取り時の照合回数を 0~3 の範囲で設定します。デフォルトは、0 回です。

照合回数 : 0	現在の設定値
0-3 回	
変更? _	0~3 の範囲内で照合回数を設定します。変更したくない場合は、ESCキーで次の項目に進むことができます。

2. コード 39

コード 39 の各種オプションを設定します。設定項目は以下の通りです。

<コード 39オプション> : デフォルト値>

読み取り : 1 > コード 39 の読み取りの有り(1)/無し(0)を設定します。
SS 送信 : 0 > コード 39 のスタート/ストップ 送信の有り(1)/無し(0)を設定します。
CD 計算 : 0 > コード 39 の CD 計算の有り(1)/無し(0)を設定します。
CD 送信 : 1 > コード 39 の CD 送信の有り(1)/無し(0)を設定します。
フルアスキー : 0 > コード 39 のフルアスキー読み取りの有り(1)/無し(0)を設定します。

3. NW7(コードバー)

NW7(コードバー)の各種オプションを設定します。設定項目は以下の通りです。

<NW7オプション: デフォルト値>

- 読み取り : 1 > NW7 の読み取りの有リ(1)/無シ(0)を設定します。
SS 送信 : 0 > NW7 のスタート/ストップ 送信の有リ(1)/無シ(0)を設定します。
SSタイプ : 0 > NW7 のスタート/ストップ キャラクタイプ を 0~3 の範囲で設定します。
0:abcd/abcd 1:abcd/tn*e 2:ABCD/ABCD 3:ABCD/TN*E

4. インターリーブド 25

インターリーブド 25 の各種オプションを設定します。設定項目は以下の通りです。

<インターリーブド 25オプション: デフォルト値>

- 読み取り : 1 > インターリーブド 25 の読み取りの有リ(1)/無シ(0)を設定します。
CD 計算 : 0 > インターリーブド 25 の CD 計算の有リ(1)/無シ(0)を設定します。
CD 送信 : 1 > インターリーブド 25 の CD 送信の有リ(1)/無シ(0)を設定します。
最大桁数 : 40 > インターリーブド 25 の最大読み取り桁数を 2~40 の範囲で設定します。
最小桁数 : 4 > インターリーブド 25 の最小読み取り桁数を 2~40 の範囲で設定します。

5. コード 128

コード 128 の各種オプションを設定します。設定項目は以下の通りです。

<コード 128オプション: デフォルト値>

- 読み取り : 1 > コード 128 の読み取りの有リ(1)/無シ(0)を設定します。

6. EAN8/JAN8

EAN8/JAN8 の各種オプションを設定します。設定項目は以下の通りです。

<EAN8オプション: デフォルト値>

- 読み取り : 1 > EAN8/JAN8 の読み取りの有リ(1)/無シ(0)を設定します。
CD 送信 : 1 > EAN8/JAN8 の CD 送信の有リ(1)/無シ(0)を設定します。
EAN13 変換 : 0 > EAN13 変換の有リ(1)/無シ(0)を設定します。

7. EAN13/JAN13/UPC-A

EAN13/JAN13/UPC-A の各種オプションを設定します。設定項目は以下の通りです。

<EAN13/UPC-Aオプション: デフォルト値>

- 読み取り : 1 > EAN13/JAN13/UPC-A の読み取りの有リ(1)/無シ(0)を設定します。
EAN13
CD 送信 : 1 > EAN13/JAN13 の CD 送信の有リ(1)/無シ(0)を設定します。
UPC-A
CD 送信 : 1 > UPC-A の CD 送信の有リ(1)/無シ(0)を設定します。
UPC-A
Sy 送信 : 1 > UPC-A のシフトバース送信の有リ(1)/無シ(0)を設定します。
EAN13 変換 : 0 > EAN13 変換の有リ(1)/無シ(0)を設定します。

8. UPC-E

UPC-E の各種オプションを設定します。設定項目は以下の通りです。

<UPC-Eオプション: デフォルト値>

- 読み取り : 1 > UPC-E の読み取りの有リ(1)/無シ(0)を設定します。
UPC-E
CD 送信 : 1 > UPC-E の CD 送信の有リ(1)/無シ(0)を設定します。
UPC-E
Sy 送信 : 1 > UPC-E のシフトバース送信の有リ(1)/無シ(0)を設定します。
UPC-A 変換 : 0 > UPC-A 変換の有リ(1)/無シ(0)を設定します。

3.5. マスターファイルモード

AP00 では、マスターファイルをハードウェアミドルにダウンロードすることで、入力コードを制限することが可能になります。

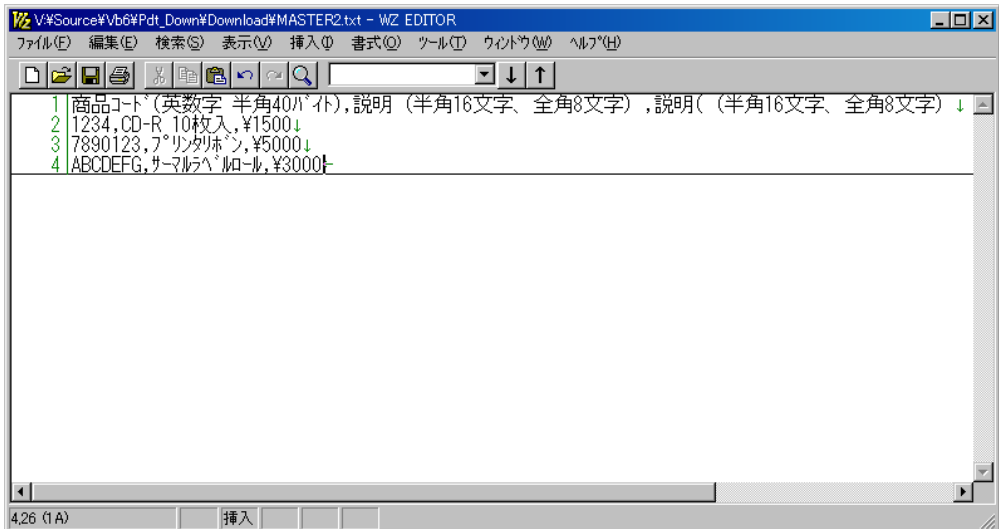
マスターファイルを作成する

EXCEL やテキストエディタを使って、CSV 形式のマスターファイルを PC 側で作成します。

下記にマスターファイルコードの仕様を示します。仕様に合わないマスターファイルをハードウェアミドルにダウンロードした場合、誤動作を起こす原因となりますので、ご注意ください。

コードフィールド	名称フィールド 1	名称フィールド 2
40 文字までの半角英数字	16 文字までの半角英数字 又は 8 文字までの全角文字	16 文字までの半角英数字 又は 8 文字までの全角文字

次の例では、テキストエディタを使ってマスターファイルを作成しています。



マスターファイルをダウンロードする

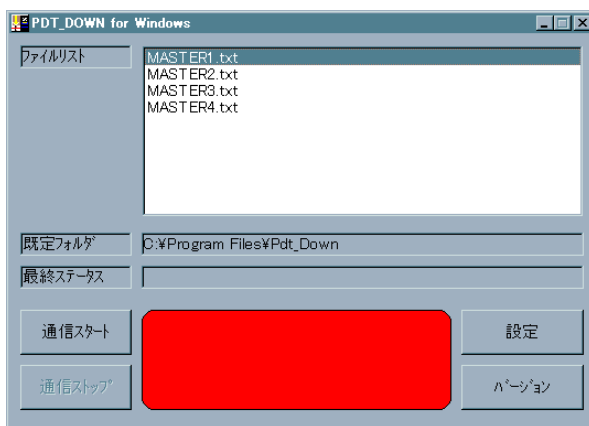
マスターファイルの作成が終われば、ハンディターミナルにファイルをダウンロードします。

ハンディターミナルのメインメニュー画面で F5(FN+5)キーを押して、オプションメニューに入り、「2.マスターファイル受信」を選択し、メッセージに従い通信位置にハンディターミナルをセットします。(最後に「受信」と付いたメニューを選択することも可能です。詳しくは、本書 27 頁を参照下さい。)

【注意】

マスターファイルがハンディターミナル内に存在する場合、警告音とマスターファイルを上書きして良いかをたずねるメッセージが表示されます。上書きした場合、先のマスターファイルを復活させることはできませんので、ご注意ください。

続いて、右侧で PDT_DOWN(ダウンロードプログラム)を立ち上げ、ダウンロードしたいマスターファイルを選択し、OKボタンをクリックします。PDT_DOWN の操作方法は、PDT_DOWN の取扱説明書を参照下さい。



ダウンロードが完了すると、ハンディターミナルはビピリというビープ音を発します。

マスターファイルモードでデータを入力する

入力プロンプトの最後に M0 という文字が付加された入力項目がマスターファイル検索対象となります。(詳しくは、本書 31 頁を参照下さい。)例えば、前頁に記載したマスターファイルがダウンロードされている場合に、入力プロンプト「>コード-M0」という入力項目で「123」というデータが入力されると、「該当データ無し」と表示され、入力は受け付けられませんが、「1234」というデータが入力されると、マスターファイルの第 2 フィールド、第 3 フィールドが画面に表示されます。表示時間の設定は、16 頁の「マスター表示マスター表示」を参照ください。

コード-M0 >123 該当データ無し Menu1 [1]	コード-M0 >123456 CD-R 10 枚入 ¥1500 Menu1 [1]
--	---

3.6. AP00 のファンクションキー割り当て

3.6.1. メインメニュー画面

メインメニュー画面では、以下のファンクションキーが有効です。

キー割り付け	ファンクション番号	機能
 + 	ファンクション F1	プログラムバージョンや各ファンクションキーの機能を確認することができます。
 + 	ファンクション F2	メモリサイズと加算を表示します。
 + 	ファンクション F3	オプション設定メニューを表示します。
 + 	ファンクション F4	データファイルの内容を表示します。
 + 	ファンクション F5	ホームメニューを表示します。
 + 	ファンクション F6	N/A
 + 	ファンクション F7	バックロードチェックプログラムを起動します。
 + 	ファンクション F8	N/A
 + 	ファンクション F9	全設定をデフォルトに初期化します。データファイル及びマスターファイルも初期化されるので、十分ご注意ください。

データファイル表示

ファンクション F4 を押すことで、ハードウェアミルのメモリに記録されているデータファイルの内容を画面に表示することができます。下記に画面例を示します。

M02 Ope-ID:S001

03/01/15 11:33

15734190

21
3
4
5

6
7
8
9
A

3/3

メニュー番号とオペレータIDを表示します。

日付・時刻データを表示します。

入力データ No.1~10(A)を表示します。

↑キーで1つ前のデータを表示します。

↓キーで1つ後のデータを表示します。

BSキーで現在表示中のロードを削除します。一度ロード(データ)が削除されると、元に戻すことはできません。

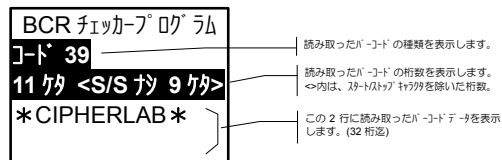
ロード位置/総ロード数を表示します。

キー操作

上下キー(▲/▼)キーでスクロール表示・BSキーで現在表示中のロード削除・ESCキーでメインメニュー表示に戻ります。

バーコード チェックアップ プログラム

ファンクション F7 を押すことで、バーコード チェックアップ プログラムを起動することが可能です。
このモードを使うことで、簡単にバーコードの種類・桁数・エンコードデータを画面上で確認することが可能になります。下記に画面例を示します。



* ESCキーでメニュー表示に戻ります。

尚、このモードに入ると、下記に列挙するバーコード体系の読み取りが可能になります。

- コード 39, CD 無し
- イタダ ストリアル 2/5, CD 無し
- インターリーブド 2/5, CD 無し
- マトリクス 2/5, CD 無し
- NW7(コード バー)
- コード 93
- コード 128
- UPC/EANJAN, アド付 2/5 含む
- MSI, CD シングル Mod.10
- Plessey

3.6.2. データ入力画面

データ入力画面では、以下のファンクションキーが有効です。

キー割り付け	ファンクション番号	機能
+	ファンクション F1	メニューに戻ります。 入力が途中の場合でも、入力内容を破棄し、強制的にメニューに戻ります。
+	ファンクション F9	メニューに戻ります。 入力が途中の場合でも、入力内容を破棄し、強制的にメニューに戻ります。

4. 8000_MENU を使う

4.1. はじめに

下記にメニュー設定ソフト8000_MENU (以下、8000_MENU)を実行するために必要な最小構成を示します。

- PC IBM 互換 PC
- OS WINDOWS 2000/XP/Vista
- メモリ 32MB 以上
- HDD 10MB 以上の空き領域

上記スペックを満たしていれば、フォルダ setup にある setup.exe を実行して、8000_MENU を PC にインストールしてください。

4.2. 8000_MENU を実行する

8000_MENU はデータ収集ソフトAP00 搭載ハンディターミナルのメニューや入力項目を加えたいする場合に使用する専用ソフトウェアです。

下記に 8000_MENU のメイン画面(起動画面)の説明を行います。

最終ステータス
通信状態やID状態を表示します。

タイトル設定
このテキストボックスにアプリケーションタイトルを半角 16 文字(全角 8 文字)以内で入力します。

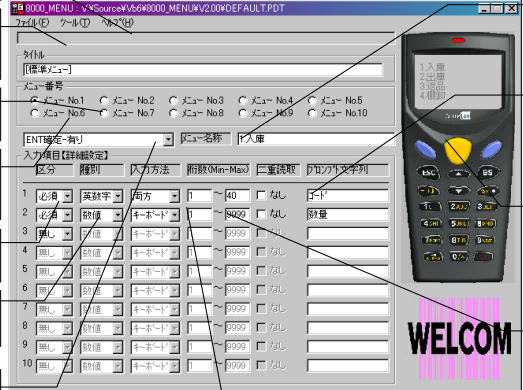
メニュー番号切り替え
このボタンをクリックして、表示・編集するメニュー番号を切り替えます。

ENT 確定選択
このボタンをクリックして、保存前に ENT キーによる確認を行うかどうかを設定します。

区分設定
このボタンをクリックして入力区分を無し・共通・必須のいずれかに設定します。

種別設定
このボタンをクリックして入力種別を数値・英数字・数字のいずれかに設定します。

入力方法設定
このボタンをクリックして入力方法をキーボード・南方・バーコードのいずれかに設定します。



メニュー名称設定
このテキストボックスにメニュー名称を半角 16 文字(全角 8 文字)以内で入力します。

プリント文字列設定
このテキストボックスに入力プリントとなる文字列を半角 16 文字(全角 8 文字)以内で入力します。

メニュー転送(ダウンロード)ボタン
このハンディターミナル画像をクリックすると編集(表示)中のメニューファイルをダウンロードし、エクスポートすることができます。

二重読取設定
このチェックボックスをオンにすると二重読取防止機能が有効になります。

桁数(Min-Max)設定
このテキストボックスに入力データの桁数を入力します。
入力範囲は次の通りです。
○ 入力種別が数値の場合
1 ~ 9999
○ 入力種別が文字・数字の場合
1 ~ 40

4.3. 動作環境を設定する

8000_MENU のメニューから「ツール」.....「環境設定」をクリックすると、設定ダイアログボックスが表示されます。下記を参考に、運用に合わせて適切な設定を行ってください。

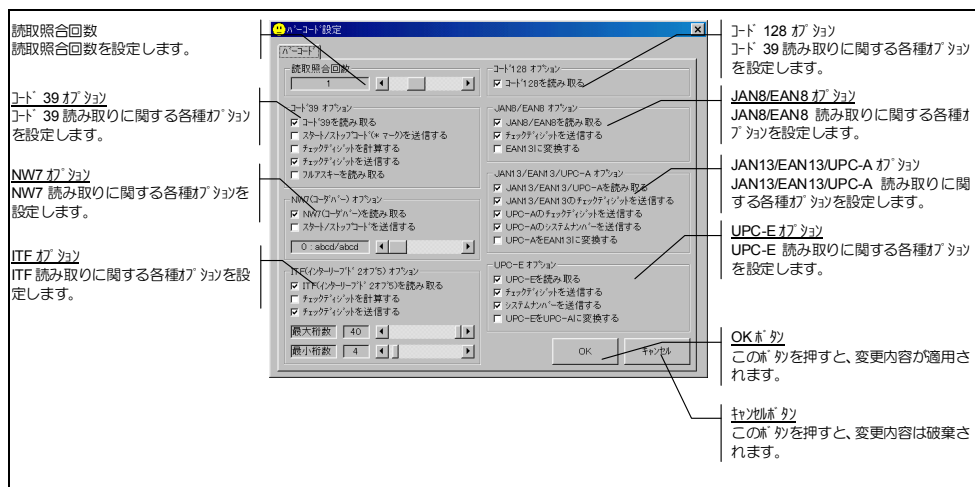


【参考】

変更した内容はアプリケーションフォルダ内にテキストファイル(INI)として記録されるため、以降、プログラム起動時にもその設定内容が適用されます。

4.4. バーコードオプションを設定する

8000_MENU のメニューから「ツール」.....「バーコード設定」をクリックすると、設定ダイアログボックスが表示されます。下記を参考に、運用に合わせて適切な設定を行ってください。



【参考】

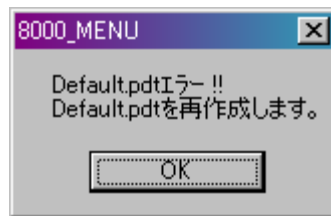
変更した内容はメニューファイルと一緒に保存されます。終了前に必ず、保存を行ってください。

4.5 加タイズメニューを作成する

ここでは、8000_MENU を使って AP00 搭載ハンディターミナルのメニューや入力項目を加タイズする具体的な方法について説明します。

1. 8000_MENU 起動

8000_MENU を起動すると、最初にアプリケーションフォルダ下にある default.pdt が読み込まれます。この時、default.pdt に異常がある場合、default.pdt を再作成するメッセージボックスが表示されますので、OKボタンをクリックしてください。



2. メニューファイルを編集する

下記の制限にしたがって、メニューファイルの加タイズを行います。
前頁のメイン画面(起動画面)の説明を合わせて参照ください。

- | | |
|--------|---|
| タイトル設定 | アプリケーションタイトルを半角 16 文字(全角 8 文字)以内で入力します。
タイトルを無しにした場合は、ハンディターミナル画面全てがスクロールメニューとして機能します。 |
| ENT 確定 | ロードを保存する前に ENTキーによる確認を行うかどうかを設定します。無しとした場合は、無条件にロードの保存を行います。 |

メニュー名称

ハンディターミナルの画面に表示されるメニュー名称を半角 16 文字(全角 8 文字)以内で入力します。メニュー名称が無い場合、そのメニュー番号以降全てのメニューは無効となります。

例えば、メニュー-No.2 のメニュー名称を無し(空白)とした場合、メニュー-No.2~No.10 は全て無効となり、1 つのメニューだけを持つ業務用 becomes となります。

下記の文字列をメニュー名称の最後に付加することで、それぞれ特別な処理を行うことが可能です。

送信

メニュー名称の最後に送信という文字列を付加すると、そのメニューはデータファイル送信を行うマスターメニューとして扱われます。

例えば、「データ送信」、「ファイル送信」、「5.送信」などは全てデータファイル送信メニューとして扱われます。但し、「モデム送信」とした場合は、専用モデム内蔵ルート(CRDL-8000M/CRDL8001M)を通して、データファイルのアップロードが行われます。

[モデム送信時のハンディターミナル画面例]

ダイヤルしたい電話番号を入力し、専用通信ルートにセットしてから ENT キーを押します。既に表示されている前回ダイヤルした電話番号へダイヤルする場合は、ENT キーだけを押し OK です。
ダイヤルには電話回線の状況により 1~2 程度要する場合があります。また、一部の電話回線の性質上、ダイヤルに失敗したり、通信エラーが発生することがありますので、その場合は、少し時間を置いてから再度お試しください。

専用モデムを通じたデータファイルの受信には、CD 中にある専用ソフトウェア PDT_UP_MODEM をご利用ください。

送信という文字列を付加した場合、以降の入力項目定義は全て無視されます。

受信

メニュー名称の最後に受信という文字列を付加すると、そのメニューはマスターファイル受信を行うマスターメニューとして扱われます。

例えば、「マスター受信」、「ファイル受信」、「6.受信」などは全てマスターファイル受信メニューとして扱われます。

受信という文字列を付加した場合、以降の入力項目定義は全て無視されます。

削除

メニュー名称の最後に削除という文字列を付加すると、そのメニューはデータファイル削除を行うマスターメニューとして扱われます。

例えば、「データ削除」、「ファイル削除」、「6.削除」などは全てデータファイル削除メニューとして扱われます。

削除という文字列を付加した場合、以降の入力項目定義は全て無視されます。

設定

メニュー名称の最後に設定という文字列を付加すると、そのメニューはオプション設定メニューへジャンプするパレーショナルメニューとして扱われます。

例えば、「オプション設定」、「8.設定」などは全てオプション設定メニューとして扱われます。

設定という文字列を付加した場合、以降の入力項目定義は全て無視されます。

S2, S3, S4,

メニュー名称の最後に S2, S3, S4, S5...S0 の何れかの文字列を付加すると、そのメニュー下の入力項目で照合機能が有効になります。

例えば、「照合-S2」、「検品-S5」、「6.入荷-S3」などは全て照合機能が有効なメニューとして扱われます。

S2 を付加した場合

入力項目 2 には、入力項目 1 と同じデータしか入力できません。異なるデータを入力すると、「照合エラー!!」となります。

S3 を付加した場合

入力項目 2,3 には、入力項目 1 と同じデータしか入力できません。異なるデータを入力すると、「照合エラー!!」となります。

S4 を付加した場合

入力項目 2~4 には、入力項目 1 と同じデータしか入力できません。異なるデータを入力すると、「照合エラー!!」となります。

S0 を付加した場合

入力項目 2~10 には、入力項目 1 と同じデータしか入力できません。異なるデータを入力すると、「照合エラー!!」となります。

区分

入力区分を無し・共通・必須の何れかに設定します。
無しに設定した場合、以降全ての入力項目は無効(無し)に設定されます。また、共通項目とする場合、下記の制限を守らなければいけません。

- 共通項目の上層には、必須項目を配置することはできません。
- 共通項目を最後の入力項目に設定することはできません。

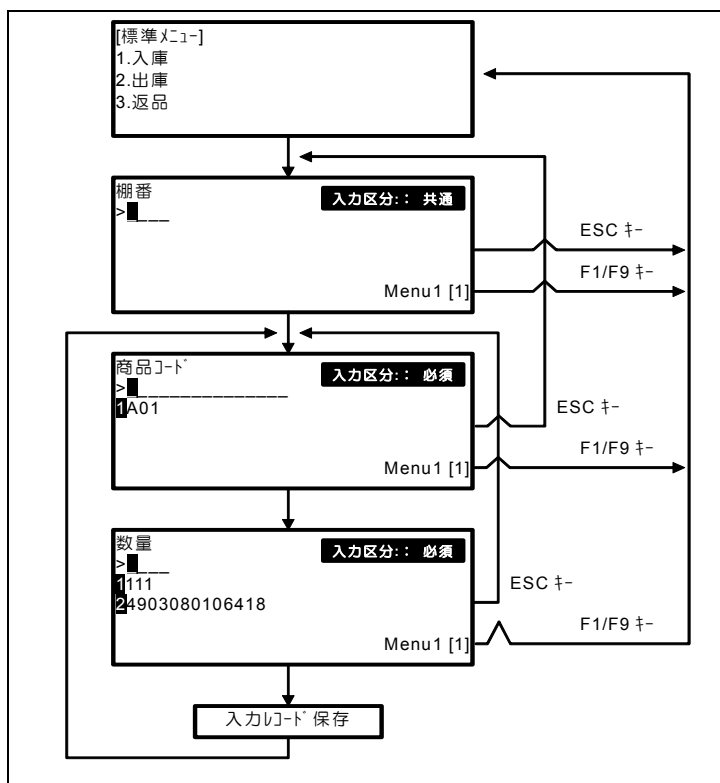
共通項目と必須項目の違い

共通項目とは、入力作業開始時に1度だけ入力を行い、以降、そのデータを共通して、使用する項目のことです。明示的にESCキーを使用して、再入力を行わない限り、共通項目のデータを変更することはできません。

それに対して、必須項目は毎回新たなデータを入力する必要がある項目のことです。

使い方の例として、入庫作業を考えてみます。入庫時、各棚番号に対して、商品の入庫作業を行う場合、商品コードと数量データは毎回異なるデータを入力する必要がありますが、棚番号に関しては、ある一定の間、共通の棚番号をを使いつづける必要があります。このような場合、下記のように各入力項目を設定することで、作業の簡略化・効率化を図ることが可能になります。

No.1	棚番	共通項目
No.2	商品コード	必須項目
No.3	数量	必須項目



種別	<p>入力種別を数値・英数字・数字の何れかに設定します。各種別で入力できるデータは下記の通りです。</p> <p>○ 数値 1~9999 の数値データが入力可能です。数量の入力に適しています。 入力時にマイナス(-)を押すことで、プラス(+)入力とマイナス(-)入力を切り替えることもできます。</p> <p>○ 英数字 1~40 桁の範囲内で、数字・アルファベット・記号を入力することが可能です。コード 39 やコード 128 のようにアルファベットや記号を表現することができるバーコード入力に適しています。</p> <p>○ 数字 1~40 桁の範囲内で、数字を入力することが可能です。JANコードや ITF (インターコード 2/5) のように数字だけで構成されるバーコード入力に適しています。 <u>また、種別を数字とし、入力プロンプトの最後にドット(.)を二つ付加することで、小数データの入力が可能になります。</u></p>
入力方法	入力方法をキーボード・両方・バーコードの何れかに設定します。
桁数(Min~Max)	<p>入力データの桁数を入力します。 入力できる桁数の範囲は下記の通りです。但し、入力データのトータルは 200 文字以内でなければいけません。</p> <p>○ 数値 1~9999 の範囲で入力可能です。</p> <p>○ 英数字/数字のみ 1~40 の範囲で入力可能です。 例えば、10 桁の入力だけを受け付けたい場合は、Min/Max ともに 10 を設定し、10 桁~15 桁の範囲で入力を受け付ける場合は、Min を 10、Max 15 に設定します。</p>
二重読取	<p>このチェックボックスをONにすると、二重読取防止機能がONになり、直前に入力されたデータと同じデータが入力されると、「二重読取!!」というメッセージを表示し、その入力を破棄します。但し、一旦電源がOFFされると、1 回目のデータ入力が終了するまで、二重読取防止機能は働きません。</p>
プロンプト文字列	<p>ハンディターミナルの画面に入力プロンプトとして表示される文字列を半角 12 文字(全角 6 文字)以内で入力します。無しに設定することも可能ですが、オペレータが何を入力すれば良いか直感的に認識できるような文字列も設定するのが良いでしょう。</p> <p>..</p> <p><u>AP00 では、プロンプト文字列の最後に半角のドット(.)を 2 つ付加することで、その入力項目を小数点入力項目にすることが可能です。小数点項目はキーボードからのみ入力可能で、小数点を含む最大 40 桁の値を入力することができます。また、入力時にマイナス(-)を押すことで、プラス(+)入力とマイナス(-)入力を切り替えることもできます。</u></p>

例えば、

種別	入力方法	桁数 Min.	桁数 Max.	ﾌﾟﾘﾝﾄ
数字	ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ	3	4	重量..

* 入力方法は、何を設定しても AP00 が強制的にｷｰﾎﾞｰﾄﾞとして取り扱いします。

と設定されている場合、下記の入力が可能になります。

1.1, 12.3, 0.1, 9999, -0.01, -9.12

MO

AP00 では、ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙを表す MO という文字列をﾌﾟﾘﾝﾄ文字列の最後に付加することで、ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙとの照合機能を有効にすることが可能です。

ﾌﾟﾘﾝﾄ文字列	説明
ｺｰﾄﾞ-MO	ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙに存在するｺｰﾄﾞ だけ入力可能。
業者>MO	ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙに存在するｺｰﾄﾞ だけ入力可能。
部品 MO	ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙに存在するｺｰﾄﾞ だけ入力可能。

ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙﾎｰﾄﾞに関する説明は、本書「3.5. ﾏｽﾀｰﾌｧｲﾙﾎｰﾄﾞ」を参照ください。

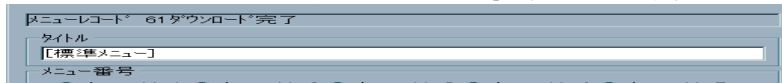
3. メニューをダウンロードする

下記に、ハンディターミナルへメニューをダウンロードする手順を示します。

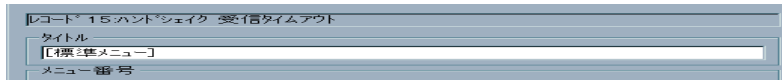
8000_MENU は現在、表示(編集)中のメニューをハンディターミナルに送信します。ダウンロードしたいメニューが表示されていない場合は、「ファイル」.....「開く」を使って、ダウンロードしたいメニューファイルを画面に表示させてください。

【メニューのダウンロード手順】

1. ハンディターミナルをメニューファイルダウンロードモードに設定します。
F5キーでホールドメニューを表示し、[3.メニューファイル保守] [1.メニューファイル受信]を選択します。
2. ハンディターミナルを通信位置にセットします。
3. 8000_MENU のメニューから「ツール」.....「送信」をクリックし、通信をスタートします。(8000_MENU のハンディターミナルの絵をクリックして実行することも可能です。)
4. 8000_MENU の最終ステータス欄にダウンロード状況が表示され、メニューのダウンロードが完了すると、下記のように「メニューロード xx 件 ダウンロード完了」と表示されます。



5. メニューダウンロード中にエラーが発生した場合は、その内容が最終ステータス欄に表示されるので、それを参考にエラー原因を取り除いた上で、メニューのダウンロードを再トライしてください。



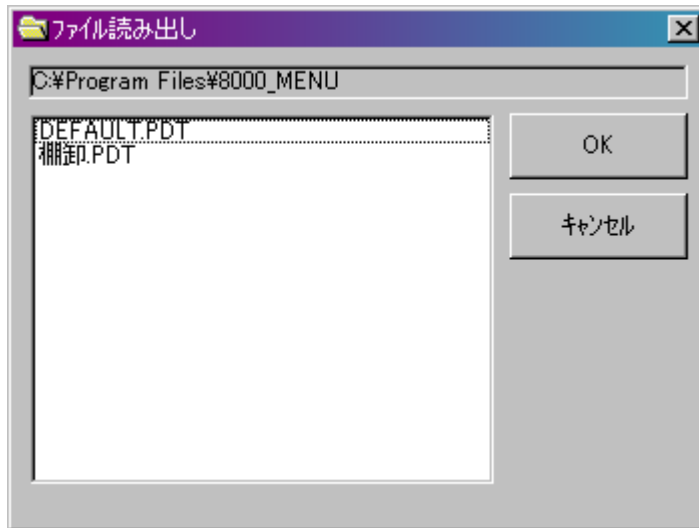
上記のエラーの場合、ハンディターミナルが通信途中で適切な通信位置から移動させられた可能性があります。

4. ファイルメニューについて

ここでは、8000_MENU の「ファイル」メニューを簡単に説明します。

- 開く

既定フォルダに存在する pdt ファイルを開きます。このメニューを実行すると、下記のようなファイル選択ダイアログボックスが表示されます。

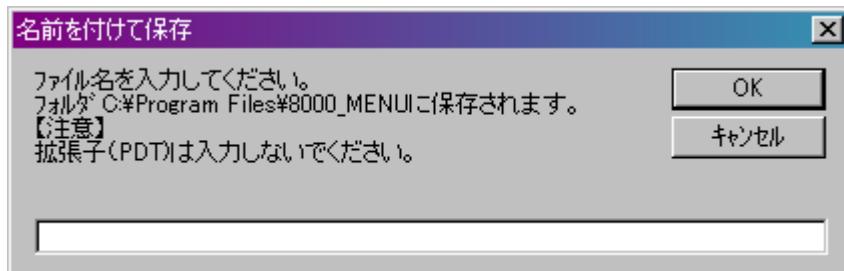


- 上書き保存

現在、編集中のメニューを上書き保存します。

- 名前を付けて保存

現在、編集中のメニューに名前を付けて、既定フォルダに保存します。このメニューを実行すると、下記のようなファイル入力ダイアログボックスが表示されます。



- 終了

8000_MENU を終了します。

編集中のメニューが必要な場合は、必ず保存を行ってからプログラムを終了してください。